

# 仮設住宅などでのディアコニア報告書

2017年5月23日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

\* 報告期間:2017年4月27日～5月9日(2017年第4次)(7会場=4仮設 2社協 子どもキャンプ)

◇4月27日(木) 生鮮食品等仕入(COSTCO・ハナマサ) 横浜発 荷物搬入

◇4月28日(金) 荷物整理 仕込み

## 【1】4月29日 杉田農村広場仮設住宅(3回目)(二本松市・浪江町民)

全員が浪江町からの避難者 64戸建設 現在約19世帯が住んでいる。昨年3月に続き3回目の訪問  
二本松市のかなり郊外で、里山の中にある。買い物などは相当不便なようである。

浪江町役場生活支援課の仲介

奉仕者は、石川和宏

### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者7名(内男性1名) 総参加者8名 庖丁研ぎ 5世帯6本
- ・提供したのは、DVD(綾小路きみまろライブ第5集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム



### 皆さんからお聞きしたこと

《仮設住宅の暮らしについて》

- ・9月には出るように言われている。

《復興住宅への転出について》

- ・仮設を出て復興住宅に移ったが、「失敗した」という人も居る。でも仮設に戻ることは出来ない。
- ・復興住宅は、今は家賃がないが、来年3月からは発生する。自治会費も高いらしい。それで自治会に入れない人も居るとき聞いている。
- ・復興住宅に行くと、また一から、近隣との人間関係を作らなければならない。

《帰還について》

- ・町にはイノシシが多い。
- ・家の近くに汚染土の仮置き場がある。気分が悪くなる。
- ・除染は、表土(汚染土)を削らないで覆土している所もある。
- ・雨が降ると雨樋の下は線量が上がる。
- ・家の近くで放射線量が3～4μSvある。



## 【2】5月1日 塩沢農村広場仮設住宅(3回目)(二本松市・浪江町民)

全員が浪江町からの避難者 98戸建設 現在約13世帯が住んでいる。昨年9月に続き3回目の訪問(8ヶ月で25世帯から13世帯に減少している。)

ここも二本松市のかなり郊外で、里山の中にある。買い物などは相当不便なようである。

浪江町役場生活支援課の仲介

・二本松市には浪江町の仮設住宅が11ヶ所あるが、自治会が存続するのはこの内の2ヶ所に留まる。塩沢仮設はその一つ。

集会所壁に前回(昨年9月)のイベントの写真が掲示されていた。

奉仕者は、石川和宏

### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者8名(内男性5名) 総参加者9名 庖丁研ぎ5世帯7本
- ・提供したのは、DVD(綾小路きみまろライブ第5集)・昼食(豚汁・漬物)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム



### 皆さんからお聞きしたこと

《3.11と原発事故について》

- ・私にとって4重の災難だった。地震と津波で家が流され、妻を失い、放射能で故郷と農地を無くした。
- ・墓石まで流された。土木工事をすると墓石が出てくる。

《帰還について》

- ・津島地区の避難指示が解除されないと、迂回しないと請戸地区には通えない。
- ・家は流されたが、土地を更地にすると税金(固定資産税)が高くなる。
- ・土地(農地)は、手放そうとしても一反(=300坪、990㎡)で10万円にしかない。
- ・狸やキジが住んでいる。

### 自治会長・熊川さんのこと

- ・今回もイベント開催でお世話になった自治会長の熊川さんが、たまたま5月16日の毎日新聞全国版に写真付きで紹介された。以下はその要旨

「福島県浪江町請戸地区の元郵便局長、熊川勝さんは、自宅で東日本大震災の津波にのまれた。ジャンパーが浮袋代わりになって一命を取り留めたものの、妻洋子さんは水の底に沈んだ。原発事故の避難指示が出されたため捜索が遅れ、警察から遺体の発見を知らされたのは2011年7月。「みんな、いなくなっちゃうんだな」。熊川勝さんが福島県二本松市の仮設住宅で自治会長を務めて6年。仮設での日々はもうすぐ終わる。

月命日の11日は妻の墓参に出かける。浪江まで往復140キロある。仮設の入居者は震災当初の6分の1になった。仲間は新居に次々と移り、駐車場の車もまばらだ。熊川さんが入る浪江の復興住宅も、もうすぐ完成する。分厚いコンクリート壁で仕切られた復興住宅の部屋を思い浮かべると、「知らない人たちの中で、また一からか」と不安になる。これまで自治会長として住民を支えているつもりだった。でもそうじゃなかった。「支えてくれたみんなのために」。

住民が仮設を出る時は荷出しを手伝い、トラックを見送ることにしている。集会所の壁には皆で出かけた寺院や花畑での集合写真が何枚も張られている。「ここで過ごした時間を支えに」。最後に仮設の鍵を閉めるのは自分でありたい。」



### 【3】5月2日 小高社協「元気塾」(初回)(南相馬市小高区・小高区民)

小高区は、昨年7月に避難指示が解除になった。小高区の3月31日現在の居住者は1,488人となり、住民登録者(9,079人)に占める居住率は16.4%(福島民報4月13日)。帰還者は高齢者がほとんどとも言われている。

小高区からの避難者を支援しているが、戻った方々にもお会いしたいと考えて、小高区社協に相談し、「小高区福祉サービスセンターあすなろデイサービスセンター」で、週1回行われているサロンを支援することになった。

全員が避難指示解除による帰還者だが、中には「既に2年前から自宅に戻っている」という方もおられた。

奉仕者は、石川和宏



#### 支援の結果

・支援者を除く参加者 28名(内男性6名)

総参加者 39名(庖丁研ぎ4世帯7本 事務所分)

・提供したのは、DVD(綾小路きみまろライブ第2集・ドリフターズ1集)・健康体操・巨大風船遊び・手遊び・昼食(豚汁・漬物)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム

・10時から2時過ぎまで、休憩を挟み約4時間。多数の職員の方に手伝って頂いた。

#### 皆さんからお聞きしたこと

《原発事故・津波・地震について》

- ・避難は、二度と経験したくない。
- ・「助けて！」という声を聞いたが、(自分は)耳を塞いで避難するバスに乗って逃げた。
- ・地震で電柱が倒れた。水道管が切れて、水が家の高さほど噴き上げていた。
- ・土湯に1ヶ月避難していた。その後原町の息子の家に行った。でも長くは居られなかった。
- ・友人の持っているアパートに避難していた。
- ・福島市南向台に避難した。そこも線量は高かった。水洗トイレが使えず、みんなで阿武隈川から水を汲んだ。



《帰還後の暮らしについて》

- ・避難指示解除の当日に小高に戻った。
- ・近所には誰も居ない。戻っていない。
- ・家は地震で傾いたが直した。工事は、山形の知り合いの業者が来てくれた。
- ・買い物はコンビニで済ませている。たまに原町のヨークベニマルまで行く。

- ・小高は淋しい。部落で戻った人はボチボチ。
- ・2年前に戻った。
- ・やっぱり小高はいい。
- ・借り上げ(みなし仮設)にいた。
- ・近所にいるのは、カラスとイノシシだけだ。

《Café de FUKUSHIMA のイベントについて》

- ・こんなの初めてだ。
- ・待っていますので、是非また来てください。

#### 【4】5月3日 鹿島社協「元気塾」(初回)(南相馬市鹿島区・南相馬市民)

南相馬市鹿島区にある社協の施設の行事が、4月から改変された。月～金まで、サロン「元気塾」と「デイサービス」がある。それぞれ参加者は替わる。今回は水曜日の「元気塾」を支援した。皆さん初めてお会いする方々。

奉仕者は、石川千鶴子・石川和宏



#### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者 25 名(内男性 2 名) 総参加者 31 名 (庖丁研ぎ 4 世帯 6 本 事務所分)
- ・提供したのは、DVD(コロッケ)・腹話術・健康体操・巨大風船遊び・手遊び・スーパーボール掬い・ヨーヨー釣り・豚汁漬物果物・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム
- ・9時半から2時過ぎまで、休憩を挟み約4時間半。多数の職員の方に手伝って頂いた。

#### 皆さんからお聞きしたこと

- ・娘と二人暮らしをしている。家の近くに仮設住宅があり、そこの方が行事の時にはいつも声を掛けてくださる。友だちも出来た。有り難いと思っている。
- ・周りには耕作放棄地が多いが、うちの田んぼは世話が出来なくなったので、人に貸して米を作ってもらっている。
- ・津波で家を流された。(何人かの方)



《Café de FUKUSHIMA のイベントについて》

- ・こんなの初めて。また来て。



## 【5】5月5日 南相馬市子どもイベント「春の一日ピクニック」

線量が高く外遊びが自由に出来ない子供たちを、心配のない場所で伸び伸びと遊ばせることを願ったイベントで、名古屋岩の上教会主催のプログラムに協力した。毎年恒例の行事奉仕者は、奥山執事 島野真兄 島野光太郎兄 島野直人兄 島野拓人兄(以上坂戸教会) 愛智宏行兄(新座志木教会) 岡本直人執事 岡本真理執事(名古屋岩の上教会) 石川和宏 (5月4日は、みなさんサマリタンハウスに宿泊)

募集は、南相馬市原町区にある社協児童館(2ヶ所)などに依頼した。

場所は、宮城県柴田町の「太陽の村」と温泉(亘理町)

遊びは、段ボールで坂すべり・ボール遊び・スーパーボールすくいなどのゲーム・ほか

参加した子ども6名

### 感想

子どものピクニックは、あの喜ぶ様を知ると、また次もと思います。子供たちもそう言っていました。今回は、日程の都合上「こどもの日」の開催になりました。日程と案内(PR)の方法に工夫の余地がありますので、そこを次に生かせれば、もっとたくさんの子どもを集められると思います。

今回のように「ほぼ1対1」でお世話できるのも、「充実」と「安全」を考えれば、悪くはありませんが。



### 参考:南相馬市(小高区)の小学生(新聞報道より)

東京電力福島第1原発事故で福島県南相馬市小高区から避難し、市内の仮設校舎で合同で授業を続けてきた市立の4小学校が23日、今年4月から区内に戻るのを前に、仮設校舎での最後の卒業式を開いた。卒業生は計29人。

小高区は第1原発に近い南相馬市の南部にあり、事故で全域が避難指示区域となった。4校も避難後、市内の中学校の校庭に建てられた仮設校舎に集約され、授業を続けてきた。

昨年7月、小高区の避難指示が一部を残し解除されたため、市教育委員会が戻ることを決めた。帰還後は小高小の校舎を使い、4校の児童が合同で授業を受ける。

小高区の小学校は、小高、福浦、金房、鳩原の4校で、東京電力福島第一原発から20キロ圏内にある。震災後

は避難し、2013年4月から今年3月まで市北部にある中学校グラウンドのプレハブ校舎に同居し授業を続けてきた。新年度から、除染し改装された小高小の校舎に移り、4校の児童が同じ教室で学ぶ。

今年の新入生は小高小の女子児童4人。

避難先から通う新入生、花里樹莉亜さんの父、直人さんは「将来は小高区に戻るつもりなので、途中で転校させるのもかわいそうだと思って入学させました」と話した。4校合わせた児童数は62人で、震災前の1割に満たない。

### 被災者に向き合い寄り添う青年たち

今回の子ども向けイベントは、奉仕する青年たち6名がいて実現できたと言える。

イベント終了後に食事をしながら感想を話してもらった。青年らしい真っ直ぐで瑞々しいものであったが、しっかりと原発事故やその被災者に対する同情を述べ、支援の継続も語っていた。老境にある報告者にとって、まことに心強い。

### 【6】5月6日 小池小草仮設住宅(4回目)(南相馬市・小高区民)

- ・南相馬市小高区から避難している方々仮設住宅で、昨年9月に続き4回目の訪問
- ・88戸建設で27世帯が在住している。
- ・お世話になった鈴木自治会長が、3月で小高に戻り、小谷津新会長と交替した。今回は、小谷津会長に開催を承諾していただき、案内のチラシ配布も引き受けていただいた。鈴木元会長は、ご夫妻で今回のイベントに参加してくださいました。
- ・名古屋岩の上教会(ディアコニア室)との共同開催で、岡本夫妻に協力してもらった。
- ・奉仕者は、岡本直人・岡本真理(以上名古屋岩の上教会)・石川千鶴子・石川和宏



### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者22名(内男性6名) 総参加者26名 庖丁研ぎ15世帯18本
- ・提供したのは、DVD(コロッケ前半 綾小路きみまろ名演集1, 2)・腹話術・昼食(豚汁・漬物)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム・手遊び
- ・この仮設の元の居住者の方が何人か参加してくださいました。



### 皆さんからお聞きしたこと

#### 《原発事故・津波・地震について》

- ・お父さんと苦勞して建てた家だったが、壊さなければならなかった。壊す時は涙が流れた。近寄れなかった。
- ・家財も持ち出せなかった。持ち出しても持って行く所がなかった。
- ・動物が家をダメにした。ネズミやハクビシン。タンスの中にまで入る。野ネズミも多い。
- ・家の天井に動物のオシッコなどでシミが出来る。臭いも酷い。取れない。
- ・原発から20km圏内(旧避難指示区域)に家があった。家財はあっても使い物にならず、補償のことで東電と話



したが、評価額が低くて喧嘩になった。中にはいい人もいるのだが…。

- ・使い物にならなくなった家財の補償金は、100万円～300万円だ。数百万円の家具があっても。津波で流されたと同じだ。

《今後の暮らしについて》

- ・千葉に家を建て息子の所に行く。
- ・小高の家は、瓦が落ちたので母屋は壊した。
- ・この仮設は来年3月までといわれているが、ギリギリになって見直しされる可能性もある。今までもそうだったから。
- ・小高では、4つの小学校を統合し一つになってやっと全校で40人ほど。今年の新入学生は4人。遠くから通う子にはスクールバスを出している。対象は、小高区に限られている。
- ・仮設から出ていく人たちは、小高に帰る人は少なく、この近辺に家を建てたり、子どもの所に身を寄せたりする人が多い。
- ・小高は買い物は不便だが、やっぱり「我が家」はいいものだ。(帰還された方)
- ・家族は、一旦別居すると再び同居するのが困難で、分裂してしまう。

### 【7】5月8日 松川第1仮設住宅(3回目)(松川町・飯舘村民)

全員が飯舘村民 飯舘村から福島市松川町の仮設に避難している原発被災者の方々

JR松川駅に近い工業団地の中にある。飯舘村の仮設(合計9ヶ所)では3番目に大きい。

前回訪問は2016年7月

118戸建設で居住者は、84世帯(前回は101世帯)

奉仕者は、石川和宏 千鶴子

#### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者34名(内男性6名) 総参加者36名 庖丁研ぎ15世帯26本
- ・提供したのは、DVD(綾小路きみまろライブ第6集)・腹話術・昼食(豚汁・漬物)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム
- ・開始の30分以上前から大勢の方に集まっていただいた。(時間前にコロケのDVDを上映した。)

《仮設住宅の暮らしについて》

- ・親との同居は、いったん離れて暮らすと、元には戻らない。
- ・住民の半数は一人暮らしの人だ。
- ・山菜は山で採れたが、今は買って食べている。
- ・来年3月が入居期限だが、ぎりぎりまで住む人もいるだろう。

《帰還について》

- ・飯舘の線量は高い。
- ・飯舘村に立派な「道の駅」(\*)が出来る。農産物の直売もあるが、買ってくれる人はいないのではないかな。  
\*「いいたて村の道の駅 までい館」床面積1,082㎡ 事業費は約7億4000万円で、うち4分の3は国からの補助金 8月オープン予定
- ・部落では、30軒中帰ったのは3軒だ。私が帰ると4番目になる。



- ・役場・病院・買い物のために、立派なバスが運行されている。本数は少ない。(週4日一日午前午後各1便)
- ・あぜ道は除染していない。線量が高い。
- ・家族がハウスメーカーに勤めていたので、そこで家が早く再建できた。

## 【8】まとめ

出会った方々 127名(内男性29名) 総参加者 163名 庖丁研ぎ 48世帯 70本

港南台キリスト教会の皆さまからビンゴの景品など、改革派中部中会の皆さまから手作りクッキーなど、たくさんの献品を頂きました。

今回も6ヶ所でビンゴゲームをしました。皆さんから頂いた景品が役に立ちました。

最近の訪問先で、「ボランティアはどれくらい来ていますか?」という質問をほとんどしなくなった。「あってもせいぜい月一回」だと分かっているので、お気の毒に思うため。

「この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか?」「その人に慈悲深い行いをした人です」「あなたも行って同じようにしなさい」(ルカ 10:36~)

## 【9】今後のスケジュール

### 2017年5月24日~6月3日

- ◇5月26日(金) 南相馬飯館自治会(8回目)(南相馬市・飯館村民)
- ◇5月27日(土) 西町復興住宅(2回目)(南相馬市・南相馬市民)
- ◇5月29日(月) 安達運動場仮設住宅(3回目)(二本松市・浪江町民)
- ◇5月30日(火) 松川第2仮設住宅(3回目)(松川町・飯館村民)
- ◇6月1日(木) 旧中郷小仮設住宅(3回目)(三春町・葛尾村民)
- ◇6月2日(金) 貝山仮設住宅(3回目)(三春町・葛尾村民)

### 2017年6月22日~7月1日(\*未確定)

- 6月24日(土) \*牛河内第4(4回目)(南相馬市・小高区民)
- 6月26日(月) 寺内塚合第2仮設住宅(7回目)(南相馬市・小高区民)
- 6月27日(火) 北原復興住宅団地(初回)(南相馬市・福島県民)
- 6月28日(水) 上町復興住宅団地(初回)(南相馬市・福島県民)
- 6月30日(金) 壁沢復興住宅団地(初回)(川俣町・福島県民)

### 2017年7月26日~8月5日

### 2017年8月23日~9月2日